

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年2月20日

第 405 号

良いところ見つけ

してみませんか？

マルカート・ドルチェ
施設長 雨宮 寛

Sさんは、自閉傾向のある青年です。毎日マルカートに通所していますが、日課で変わる活動以外は、ほぼ同じパターンで一日を過ごしています。また、玄関先で、枯葉をちぎる感触と、ぱらぱらと葉が落ちていく様子を眺めることを専ら楽しむにしている方です。他者が玄関を忙しなく出入りしていても、彼は、自分のペースを崩すことはありません。ゆったりと同じ動作を繰り返し、ニコニコと至福の時を過ごしているのです。周りからすれば何が楽しいのか理解できない行動で、捉えようによつては玄関先を汚してしまう困った行動も、彼にとつては、心地良くて安心できる、とても大切な時間なのだと思います。同じ行動でも、困った行動と捉えるか大切な時間と捉えるかで、彼に対する関わり方が大きく変わっていくことになりました。

話はかわり私ごとで恐縮ですが、私は大学進学を機に、南の小さな島からいわゆる本土へでてきました。その際、習慣や風土、大げさに言えば文化の違いに、色々苦戦した記憶があります。中でも時間の観念(時間の流れ)には苦労し

ました。時間の長さが変わるわけではありませんが、年中暖かい(夏場は暑い)気候風土に培われた南の島ならではのんびりとした生活は、当時の私の性質の中に染み付きました。さすがに学校や仕事は、時間通りですが、仲間内での集まりや待ち合わせ等は、「待つ、待たされる」が当たり前の文化でした。悪く言えば時間にルーズ、良く言えば大らかであるともいえます。「島時間」といわれる、この良く言えば大らかな時間の受け止め方は、本土の方には理解できない感覚で、周囲をイライラさせてしまうようでした。一方、旅行等で南の島を訪れる人たちは、自然の美しさは勿論ですが、人の温かさや大らかさ、ゆつたりとした時間の流れに癒され、再訪したいと願います。同じ時間の過ごし方でも、場所や状況に応じて、人の捉え方や気持ちのあり様は、大きく変わるものです。

ここ数年、役割で小学校へ行く機会が年に数回与えられます。その中で、最近どこの学校へ行っても「子供同士の良いところ見つけ」の掲示物を見かけるようになりまし。クラスやグループで、お互いの良いところを見つけ、伝え合う取り組みで、子どもたちの自己肯定感を高める効果を期待しているとのこと。福祉の現場で最近よく聞かれる言葉に「リフレーミング」というものがあります。心理学用語で「肯定的な意味づけ」とも呼ばれているそうです。昨年受

けた相談支援専門員の研修でも、盛んにこの言葉が使われていました。Sさんの困った行動と安心できる行動、時間にルーズと時間に大らかといった具合に、捉え方で180度違った意味づけをするのです。リフレーミングは、ある事象をネガティブに捉えるのではなく、肯定的に捉えポジティブな支援につなげていく、良いところ見つけの手法のようにも思えます。

社会に閉塞感が漂う中で、「フアースト」のように極端に偏った第一主義を求める風潮が気になります。一方に偏った価値基準や捉え方を大切にする「フアースト」は、それ以外のものを否定し排除してしまうことにもつながりません。政治でも宗教でも文化でも、違いや多様性を認めない極端なあり方は、差別や分断そして対立を生むように思います。

重い障がいのある人たちを支援してきた小羊学園には、困難を楽しみに変えるリフレーミングに似た利用者の捉え方が、自然となされてきたように思います。「大変だけど楽しい」それは、彼らとの関わりの中で、苦労以上の喜びや心の豊かさを感じる経験から培われてきたのだと思います。小羊学園らしさの基が、ここにあるのかもしれない。閉塞感のある今だからこそ、リフレーミングして、皆で「良いところ見つけ」してみませんか？

対談 『重症心身障害児・者の支援を考える』

身体に重い障がいと知的な発達障がいを重ねた重症心身障害児の支援には、医療・福祉のみならず、地域で支える仕組みが大切になります。

つばさ静岡は、重症児施設として医療ケアも包含し、幼児期から大人までの入所・通所支援をしています。今回、稲松理事長と山倉施設長に、これからの重症児支援のあり方を語ってもらいました。

《対談者》

小羊学園 理事長 稲松 義人
つばさ静岡 施設長 山倉 慎二



稲松理事長

山倉施設長

「現在の重症児支援の現状」

【稲松】つばさ静岡は、もともと児童福祉法による重症心身障害児施設ですが、医療施設でもあるため、医師に施設長

をお願いする必要がありました。それで、つばさ静岡の開設のときに、山倉先生にお願いに行ってから15年近く経っていると思います。一昨年の十周年記念誌を読ませてもらいながら、周囲から高い評価をいただけていることに感謝したことでした。現場ではいつもご苦労が絶えなかったのだろうなと思っていますが。

【山倉】私も深く考えることなくこの世界へ入ってきたものですから、開設当初、すべてをゼロからはじめなければならなかったこともあり、たいへん苦労しました。幸い職員にも恵まれ、まわりの人たちの力強い協力や暖かいご支援があったので、何とかここまでやって来ることができました。

重症児者医療が通常の医療と大きく異なるところは、病気を治すことに主眼を置くのではなく、日々の生活を第一に考えるところです。通常の医療であれば、治療のために生活を厳しく制限され

る場合もあると思いますが、重症児医療にはその逆の発想が必要になります。生活ひいては人生を快適に過ごすために、いかにうまく医療を組み込んでいくか、というような考え方です。実際には感染症の治療など急性期の医療を必要とすることも多いのですが、正直なところ医療よりも何よりも彼らの健康を支える基盤となっているのは、看護や介護の力なのです。そういう意味では、今つばさ静岡が成り立っているのは、看護師や介護職員の日ごろからのケアの成果なのではないでしょうか。

「つばさ静岡の実践」

【稲松】私は、つばさ静岡だけではなく、小羊学園全体として、地域での連携、行政や市民との協働での事業展開のあり方を進めていきたいと思っていますが、昨年度までは自分自身も浜松地区の一事業所の責任者を兼務していましたので、どうしてもそこでの課題に対応することが中心でした。今年度から理事長専任にさせてもらったので、浜松の他のエリアや、静岡市でのつばさ静岡の事業についても、一緒に取り組んでいきたいと思っていますが、静岡市にあることと、重症心身障害児者を対象にしていることで、これから進むべき方向性について具体的なイメージを持っていないような気がします。山倉先生が、地元の医

療関係の方たちとの接点も広げて輪を広げてくださっています。将来的なイメージをどのようにおもちなのでしょうか。



【山倉】重症児者は意思疎通が難しく、身体の障害も重度であるために、医療的な関わりもたいへん難しい方だと思われているようです。また重症児者は社会的少数者であるため、医療関係者の間でも認知度が低く（あまり出会うことがなく）、医師の中でもごく限られた者のみが彼らの診療をしてきたという一面があります。そのために重症児者は特殊な存在のように思われていますが、決してそのようなことはないということをまず知っていただくことからはじめる必要があります。その上で、これまでのように、重症児者はどこで、誰が診るのかではなく、どこでも、誰でも重症児者を診れるという医療の広がりを目指しています。

「在宅障害児のネットワーク」

【山倉】今、着実に重症児者を支えるネットワークが広がっています。重症児者に関わる看護師、介護従事者、ケアマネジヤの研修が毎年行われ、毎回多くの参加者がいます。また静岡県下の各圏域で重症児部会が立ち上がり、地域単位でのネットワークも築かれつつあります。これまではそこに医師が加わることが少なかったのですが、今年度は静岡県によって、静岡県医師会の協力のもと、診療所の医師に向けての研修も行われました。来年度以降はさらにその輪が広がり、医療、福祉、教育、行政が垣根を越えて、あるいは垣根をなくして協力し合える関係を構築したいと考えています。

【稲松】小羊学園には、いわゆる入所施設が、つばさ静岡の他に、三方原スクエア、支援センターわかぎと併せて3つあります。利用定員からすると福祉施設としては決して大きな方ではありませんが、やはり、地域の中の支援ネットワークの基幹となる役割が期待されているのではないかと思います。本来は、行政の責任で運営されるべき機能ではないかと思いますが、実際には行政が運営する施設が、そのような役割を効率よく果たすことができているかという点、残念ながらもなかなか難しいよう

です。かなりの予算を投入して民間にはできない機能をもたせているのか、あるいは地域的に民間の施設がないために、行政が率先して福祉サービスを担わざるを得ないような地域もあります。最近、公立施設も民間へ運営委託されることが多くなっています。しかし、委託された民間法人によっては、一施設としての役割のみに終わってしまい、基幹施設としての役割を担うまでにはならないケースが多いような気がします。

【山倉】つばさ静岡は重症児者に特化した施設です。言い換えると、重症児者の支援に関しては何でもやっつけていかなければいけないし、またその中心的役割を担うべき使命があるのではないかと考えています。現在、入所、通所だけではなく、相談、リハビリ、摂食外来、放課後支援、ライフサポート事業、リフレッシュ事業など、非常に多岐に亘る重症児者に対する支援事業を行っています。静岡県中部にはこのような施設が他にないので、そういう意味では基幹施設となりつつあると思っています。

【稲松】浜松地区においては、聖隷おぞら療育センターに基幹施設としての役割を担ってほしいと期待するところですが、小羊学園としても地域のネットワークの中で、自分たちでできる範囲で重症心身障害児者への支援の一旦を担

うことができるよう努力したいと思えます。



「総括」

【稲松】今年は、社会福祉法の改正に合わせた組織変更に取り組んでいます。が、大切にしてきた法人としての理念をしっかりと継承しながら、公共性を具現化できる施設運営のあり方を考えていきたいと思っています。静岡県地区ではつばさ静岡で取り組んでこられた医療的なネットワークも含め、これまでも一緒に歩んできた重症心身障害児者を守る会の皆さんとともに、静岡県、静岡市とも相談しながら、地域に根ざした事業展開をしていけるように、小羊学園としてこれからも一緒に考えていきたいと思っています。

【山倉】昨今、少子高齢化によって、福祉の世界では人手不足が深刻です。この状況が今後よくなっていくということは

まずないでしょう。ですから事業展開といつても新たな施設を建てることは現実的ではありません。今ある資源をより有効に活用していく、あるいは業種を超えたより大きな枠組みの中で在宅の重症児者を支える体制を整えていく必要があると考えています。そのためには多くの職種との連携が必要です。職業人ではない地域の人たちとの協力や理解が必須だと思えます。重い障害をもつ彼らがその仲を取り持つてくれはしないだろうかと期待しています。

【稲松】同感です。私も彼ら自身から発せられるメッセージを周囲の人に伝えることで、真の福祉社会が作られていくのではないかと考えています。ありがとうございます。ございました。



法人中堅研修開催

2月9日、浜北森林公園森の家で法人中堅職員研修を行いました。主に各施設3年～5年目の職員を対象とし、「私たちの支援を見つめ直す」をテーマに自己研鑽を目的とした、グループワークを行いました。今回の研修では、初参加12回目参加者の後追いの機会として参加しました。事前にアセスメントシートを配布し、自己評価をした上で自分の強み・弱みを報告しました。

グループワークでは、自分の苦手な箇所について、どう改善していけばよいのか、また解決策や対処方法を検討しました。グループ内で積極的な意見が交わされ参加者の目が輝いていました。最後に、自分自身の強みや課題・解決方法を自己目標として作成・発表し、自分自身を見つめ直す良い機会となりました。



相談支援「アグネス静岡」 専用電話に変更しました

静岡市葵区の「つばさ静岡」内にある相談支援事業所「アグネス静岡」が専用電話に変更になりました。これまで「つばさ静岡」と同じ回線でしたが、ご面倒をおかけしていましたが、専用回線になったことで、相談支援専門員と直接やりとりできるようになりました。

なお、新電話番号は左記のとおりです。

☎054-249-2833

浜北キッカーズ

NTT杯U-12県大会ベスト8

支援センターわかぎ隣接の法人空土地（無償貸与）をサッカーの練習場として利用している「浜北キッカーズ」が18年ぶりの県大会ベスト8に進出しました。準決勝では、前回準優勝チームに惜敗してしまいましたが大善戦でした。週末になると、ご家族で練習に訪れ、利用者との交流も図られています。今後の更なる飛躍を願っています！

浜松中区・南区の土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状です。土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

・候補地

浜松市中区・南区

・土地条件

500坪～1000坪程度
宅地／農地／雑種地問わず
隣接して6m道路
電線・水道管近くにあれば◎

・貸与条件

可能であれば無償
貸与期間、固定資産税免除
建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷
053-584-3337



小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告

1月 受付分 538,120円 (45件)
累計 6,118,962円 (391件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

編集後記

先日、浜北区自立支援連絡会の課題検討委員会が主催・計画した「老障連携研修」が行われ、障害者分野のお話をさせていただく機会があった。参加したのは、区内の高齢者ケアマネや地域包括支援センターのスタッフ。私たちも高齢者福祉の現状は疎いが、高齢者福祉の専門家も障害者福祉はチンプンカンプンの様。こうした機会を重ねる中で、地域の「わが事・まるごと」地域共生型社会が進んでいけばと願っている。少しずつ春の気配を感じる季節です。どうぞお身体ご自愛ください。